

県内屈指のぶどうの里
研修生4人が見つめる
それぞれの未来、
沼隈の農ある暮らし。



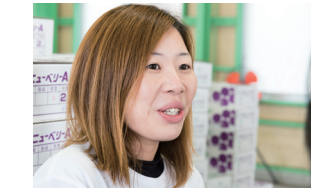
右田祥康さん 村上正弘さん 岡本美菜絵さん 西森恒平さん

広島県福山市
ぶどう
沼隈農園 第一期研修生

沼隈の農の担い手の育成を目的とし、2015年に開園した「沼隈農園」。第一期生として選ばれたのは、年齢、経歴も様々な4名。2年間の研修を終え、新たな一歩を踏み出した彼らに、ぶどう農家としての展望を語ってもらった。

ぶどう農家転身へ
出会い・きっかけは？

村上さん：沼隈には耕作放棄地がたくさんあるんです。会社を辞めてこれからどうしよう、という時に「一番に頭をよぎったのが」地域の耕作放棄地を借りて野菜をつくらう！」でした。地域のいろいろな土地を見て回っている時ある農家さんに「畑を手伝わないか？」と声をかけられました。それが偶然にもぶどう農家さんだったんです。その後、近くに畑を借りて野菜を作る傍ら、ぶどう栽培の手伝いに行く日々が続きました。そのうち、いつか自分のぶどう畑を持つてぶどう農家として自立したい、と思うように。「沼隈農園」の就農研修制度を知った時は「これだ！」と思いました。手伝いはなく、ガッツリとぶどう栽培を学べた2年間、自信もついたら、今からが楽しみです！



岡本さん：嫁ぎ先が沼隈のぶどう農家だったんです。結婚後、双子が生まれたのを機に夫の実家で暮らすようになり、わたしも何か役に立ちたい！という思いで、義父母が営むぶどう園でアルバイトをすることに。とは言うものの、早起きも、運動も、虫も苦手、当初は慣れなくて大変でした。就農研修制度が始まった時、ぶどう栽培を学ぶ良い機会だと思いい応募しました。今後は、2年間の研修で得た経験と知識を生かして、実家のぶどう園を盛り立てていきたいです。沼隈の人たちはとてもオープンで気さくな方ばかり。地方から移り住んだわたしも農作業を通してすぐに町の人たちと打ち解けました。

沼隈を元気にしたい！
次世代へつなぐ農業

西森さん：僕の場合、以前からの夢であった農業大学へ通うために仕事をやめて、家庭菜園に取り組んでいる時に、この研修制度に出会いました。農を生業にするための最短ルートだと思いました。ですが、研修メンバーの中でぶどう栽培の未経験者は僕だけだったので、焦りや不安があったのも事実です。でも、沼隈には農園の組合の集まりがあったり、選果場に行けばいつも誰かがいて、研修生である僕にいろいろなことを教えてくれました。ぶどう栽培について、知識・経験共にゼロの状態から始めて2年、ようやくぶどう農家としてのスタートラインに立ちました。これからも経験を積んでいき、沼隈のぶどう園を盛り立てていきたいです。



右田さん：祖父が柿農家を営んでいて、幼い頃から「農のある暮らし」に親しんでいます。祖父はいつも、農業は大変だと言っていたのですが「笑」この周辺で専業をやるならぶどうが一番だ」というアドバイスをくれ、実際に畑を借りることを検討していたら、タイミング良く「沼隈農園」の研修生募集を知りました。今、農家の高齢化に伴い、栽培面積が狭まり生産量が落ちることが懸念されています。先人たちが培ってきた沼隈のぶどう栽培に僕も連なっていきたいです。そして、また新しい世代にこの土地の農業に興味を持ってもらえるように、元気な農と美味しいぶどうを作っていきたいです。



(1) 収穫したぶどうは大きさ、色、傷、ふさの締め具合などを一つずつチェックし、等級分けを行う (2) 畑での作業を終えて、午後から選果場の手伝いをする岡本美菜絵さんと右田祥康さん。箱詰めされた商品の最終チェックを行う (3) 「沼隈農園」では、ニューベリーA、ピオーネ、瀬戸ジャイアンツを栽培。年間を通してぶどう栽培に携わり、農業者として自立していくためのノウハウを学んでいく。現在は、二期生がこの畑で研修実践を行っている (4) 収穫したぶどうを丁寧にチェックし、等級ごとに分けていく西森恒平さん。研修に入るまで、沼隈がぶどうの産地だとは知らなかったという。この2年間で学んだことをベースに沼隈のぶどうをたくさんの人に食べてもらえるよう、栽培に力をいれていきたいと話す

村上さんの
一日

朝摘み採れたてのぶどうは格別です!!



- 6:00 起床
- 7:00 畑へ
早出当番の場合は5:30頃に畑へ。朝摘み採れたてのぶどうは新鮮さが違います。ぶどう栽培を行う一年の中で一番嬉しい時期です。
- 9:00 等級分け作業
朝に収穫したたくさんぶどうを等級ごとに分ける作業をスタート。大きさや傷のチェックをして重さを計ります。最後は箱詰めして完了。年に数回行われるJAの勉強会に参加することも。
- 15:00 昼食
作業に余裕がある時は、一旦自宅に戻って昼食。忙しい時期には畑で食べることも。
- 16:00 畑・JAへ
畑や道具の手入れ、肥料の用意など細々した作業をみんなで分担。
- 17:00 帰宅
空いた時間を使って近所の農家の手伝いやぶどう農家の集まりに向かうことも。先輩農家の今に触れる機会を大切にしています。



DATA
広島県果樹農業振興対策センター・沼隈農園

【お問い合わせ】
広島県果樹農業協同組合連合会
広島県竹原市忠海中町1-2-17
TEL:0846-26-0011



土地の農業に興味を持ってもらえるように、元気な農と美味しいぶどうを作っていきたいです。